



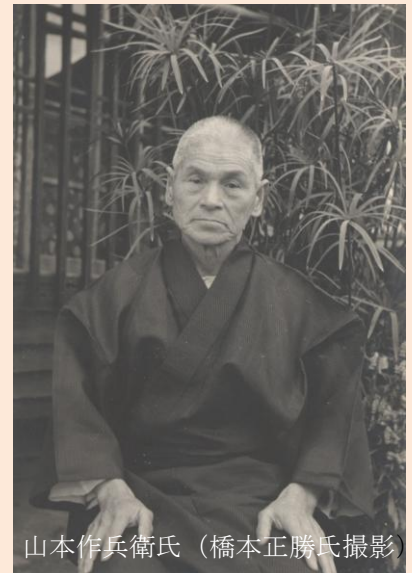
企画展 「ユネスコ世界記憶遺産 デジタル複製版 山本作兵衛 炭坑記録画展」

後期：2015年10月28日(水)～11月23日(月)

水彩画10点を入れ替え、炭坑(ヤマ)の文化や生活を紹介します



春駒 ©Yamamoto Family 田川市石炭・歴史博物館蔵



山本作兵衛氏 (橋本正勝氏撮影)

【前期入館者の感想から】

- ・ 私も九州の佐賀県杵島炭鉱の近くで生まれたので、早速来させていただきました。幼い記憶ながら、懐かしく親近感がありました。作兵衛さんは、本当に素晴らしいものを私たちに書き残してくださいました。
- ・ 力強く働く人たちが生き生きと描かれ、感動をいただきました。もっと見たいです。
- ・ 近くで山本作兵衛さんの作品を観ることができてありがたい。原画同様の鮮明さです。田川市のパンフレットもよかったが、採炭の全体像があれば一枚一枚の位置づけも見えてくると思う。



入浴 ©Yamamoto Family 田川市石炭・歴史博物館蔵

日本の近代化を支えた筑豊炭田

多くの炭鉱労働者の犠牲の上に近代日本の繁栄は築かれた

日中戦争から第二次世界大戦が終わる1945年(昭和20)にかけて、日本の炭鉱は労働者の徴用による労働力不足に苦しみました。それを補ったのが女性や植民地からの労働者でした。彼らの力なくしては、筑豊の発展はなかったかもしれません。ちなみに、筑豊炭田が最大の年間出炭量 2,049 万トン記録したのは1940年(昭和15)で、この年の全国の出炭量 5,730 万トンの約 36%を産出しています。

【戦争を遂行するために作られた法律】

- **国家総動員法** 1938年(昭和13)
総力を遂行するための人的・物的資源を政府が統制運用できる法律。労働関係では、国民の徴用、雇傭・労働条件の規範、労働争議の予防・解決が定められた。
- **国民徴用令** 1939年(昭和14)
「国家総動員法」に基づき、戦時における労働力確保のため、国民を強制的に動員できる法律。
- **戦時緊急処置法** 1945年(昭和20)
本土保衛に加え、政府に命令権を含む委任立法権を規定した法律。植民地を含めた全域で施行された。



炭鉱を支えた労働者たち



みへな戦争にとられて、炭坑では働くもんが、おらんごとなつてもうたき…外国人を連れてきたっちゃ!

あん炭鉱は、厳しいとこやった。多くは朝鮮半島から連れて来られた外国人労働者で、そん人たちのがんばりもあって、今があるようなもんだい。

なんで外国の人たちがたくさん連れてこられたん?



朝鮮半島の労働者の「募集」から「徴用」への経緯

- 1939年 **募集** (昭和14) 日本国内の企業が朝鮮総督府(韓国併合から太平洋戦争終結まで、朝鮮半島を統治するために設置された機関)の許可を得て、指定された地域で労働力を募り、応募した人たちが集団で内地(日本本土)に渡り、日中戦争で労働力が不足したため、それを補填して朝鮮での募集を解禁した。
- 1942年 **官制徴用** (昭和17) 企業が朝鮮総督府に必要人員を申し入れ、総督府が日本の属にあたる地域ごとに人数を割り当て、属はさらに市町村にあたる地域にそれぞれ人数を割り当てて労働者を募集。
- 1944年 **徴用** (昭和19) 日本本土で実施されていた「国民徴用令」による徴用を朝鮮でも開始。応じなければ処罰の対象となった。

元朝鮮人坑夫の証言 裴来善さん

1943年(昭和18)4月に来日し、佐賀県の造船所で働きました。5ヵ月後、「父急病」の知らせで韓国に戻りましたが、敵に父は亡くなっていました。「家を支えるために日本には行かない」と決心しましたが、周囲に説得され、最後は日本人の警察官が刃を突きつけて日本行きを迫ったため、再び日本へ。現在の北九州市八幡西区にあった貝島炭坑で働きました。高さ2m以上の礫に囲まれた8人部屋で暮らし、粗末な食事だけで地底に降り、石炭を運びました。暴行を受ける朝鮮人労働者の苦痛も毎晩聞きました。2ヵ月半後、休憩中のすきを縫って逃げ出し、「九州を転々とし、基地の造成工事などで食いつなぎました。筑豊の寺院を訪ねて、無縁山を見つけたら、私もボタ山のふもとに埋められたか、どこかの寺の納骨所の片隅に埋められてホコリをかぶつたまま、無縁山になっていたかもしれないと思います。

人権に対する国際的視点と日本の対応のズレ

戦前の差別意識が今も残っている現実
国連人権委員会特別報告
2005年(平成17)7月3日から11日まで、日本の人権 NGO、反差別運動の案内で、国連人権委員会委員の特別報告者、ドッド・ディエン氏が人権状況の調査のために来日しました。同報告者は各地の人権団体の案内でつづろ地区(京都府宇治市)、被差別部落(大阪府西成区)、京都朝鮮中高級学校、部落解放同盟中央本部、北海道つり協会(現北海道アイヌ協会)、善手船基地や普天産基地の代替施設建設予定地を訪ね、ヒアリングを中心とした9日間の調査を行いました。同報告者は2006年(平成18)1月に報告書を発表し、調査の結果、日本には人権差別と外国人労働者が存在していると、日本政府に「日本社会に人権差別および外国人労働者が存在することを正式かつ公的に認めること、人権主義、差別および外国人労働者を禁止する国内法の採択」を勧告しました。

「ふくやまピース・ラボ」NEWS



若者が平和について学び、考え、発信していく「ふくやまピース・ラボ」事業。5月から始まったこの講座も、基礎的な学習や福山空襲体験者のお話などを基に、これからは、自分たちの視点で平和を発信していく事業に取り組みます。12月13日(日)に予定されている「福山人権平和フェスタ」において、「福山海軍航空隊」をテーマにした朗読劇と平和の歌を発表するために、台本づくりや練習に励んでいきます。応援してくださいね。



Pラボ・キャラクター

企画展「山本作兵衛炭坑記録画展」関連事業



映画「三たびの海峡」上映会 **入場無料**
 とき: 11月15日(日) 1回目: 10時から
 2回目: 13時30分から
 ところ: 福山市人権平和資料館 (☎924-6789)